



大野川水管橋



川辺ダム

### information

昭和井路開削の起源は、大正3年(1914)北海道郡長長谷岩彦が大正井路を発起し、取入口を大野郡百枝村川辺(川辺ダム)に求め、測量・設計書作成に着手したことに始まる。

この計画は、水利権が九州水力発電(株)よりの請願であったため計画書の完成を待たずに中断となってしまったが、大正末期の未曾有の大旱魃を機に再び井路開削を計画、その後紆余曲折を経て昭和15年に耕地整理組合を設立認可、当時「東の天竜、西の昭和」と謳われ、西日本最大の利水事業として昭和17年着工、昭和33年に完成した。

大野川水管橋は当初、床埋設形式のサイフォンとして昭和23年度着手、幾多の障害を克服し昭和32年に竣工している。その後、大野川下流での骨材採取、相次ぐ台風の影響でサイフォン管外部が露出するなど極めて憂慮すべき事態となった。

現在の水管橋は、昭和41年採択の県営かんがい排水事業により完成したもので上弦材の座くつ安定性を的確に把握して軽量化と経済性、耐久性、安全性に優れる、ダブリー・パイプ・システム



建設年	昭和17年～昭和33年
所在地	大分市判田
諸元	延長408m、管径φ1300
お問い合わせ	大分市大字下戸次1396 昭和井路土地改良区 TEL097-597-2805 FAX097-597-2803